

1.	①	11.	①	21.	④	31.	③	41.	②
2.	④	12.	④	22.	②	32.	④	42.	③
3.	③	13.	②	23.	③	33.	④	43.	①
4.	④	14.	④	24.	④	34.	③	44.	③
5.	④	15.	①	25.	④	35.	②	45.	①
6.	④	16.	①	26.	①	36.	②	46.	①
7.	④	17.	②	27.	②	37.	①	47.	③
8.	④	18.	②	28.	③	38.	②	48.	③
9.	②	19.	②	29.	③	39.	③	49.	③
10.	②	20.	③	30.	④	40.	①	50.	②

1.

解答 ①

【解説】

正解は①「～を言い表す、説明する」です。動詞の`describe`は、人や物、出来事がどのようなものであるかを、言葉で詳しく「描写する、説明する」ことを表します。`Can you describe the bag you lost?`（あなたがなくしたバッグがどんなものか説明できますか？）。②「～を設計する」は`design`、③「～を破壊する」は`destroy`、④「～を決定する」は`decide`です。

◆補足：名詞形は`description`（描写、説明）です。`a brief description`（簡単な説明）。`beyond description`で「言葉では言い表せないほど」となります。`The beauty of the sunset was beyond description.`（その夕日の美しさは筆舌に尽くしがたかった）。

2.

解答 ④

【解説】

正解は④の`experiment`で、「実験」を意味します。科学的な理論を証明したり、新しいことを試したりするために行われる試験を指します。`The results of the experiment were published in a scientific journal.`（その実験の結果は、科学専門誌に掲載された）。他の選択肢は、①`experience`が「経験」、②`expert`が「専門家」、③`explanation`が「説明」という意味です。

◆補足：動詞としても「実験する」という意味で使われ、`experiment with ～`の形で「～を使って実験する」となります。コロケーションとしては`conduct an experiment` / `do an experiment`（実験を行う）が一般的です。

3.

解答 ③

【解説】

正解は③の`office`で、主に二つの意味があります。一つは、事務作業が行われる「事務所、会社、仕事場」です。もう一つは、政府などの「官職、公職、役職」です。`Our office is on the fifth floor.`

(私たちの事務所は5階にあります)。`He took office as president.`(彼は大統領の職に就いた)。他の選択肢は、①`offer`が「申し出」、②`officer`が「役員、警官」、④`official`が形容詞で「公式の」または名詞で「役人」という意味です。

◆補足：コロケーションとしては、`post office`（郵便局）、`head office`（本社）、`an office worker`（会社員）などがあります。

4.

解答 ④

【解説】

正解は④の`exhibition`で、「展覧会、展示会」を意味する名詞です。美術品、製品、歴史的資料などを、多くの人々に見せるために公開する催しを指します。`The museum is holding a special exhibition of ancient art.`(その美術館は古代美術の特別展を開催している)。他の選択肢は、

①`exception`が「例外」、②`expedition`が「探検(隊)」、③`explanation`が「説明」という意味です。

◆補足：動詞形は`exhibit`（～を展示する）で、名詞として「展示品」という意味でも使われます。`hold an exhibition`（展覧会を開く）。

5.

解答 ④

【解説】

正解は④「不親切な」です。`unkind`は、「意地悪な、思いやりのない」という意味の形容詞です。`kind`（親切な）に、否定を表す接頭辞`un-`が付いた形です。`That was an unkind thing to say.`(そんなことを言うなんて、不親切だった)。①「知られていない」は`unknown`、②「不公平な」は`unfair`、③「ありそうにない」は`unlikely`がそれぞれ適切な単語です。

◆補足：`un-`は形容詞や副詞の前に付いて、その意味を否定する働きをする一般的な接頭辞です。`happy`→`unhappy`（不幸せな）、`fortunately`→`unfortunately`（不運にも）など、多くの例があります。

6.

解答 ④

【解説】

正解は④「～に決める」です。`decide on ～`は、「～を選ぶ、～に決定する」という意味の句動詞です。いくつかの選択肢の中から、考えた末に一つを選び出すことを表します。`After much discussion, we decided on the final design.`（多くの議論の末、私たちは最終的なデザインに決めた）。①と②はどちらも`depend on ～`で表せます。③「～に反対する」は`object to ～`などが適切な表現です。

◆補足：`decide to do`（～することを決心する）と`decide on` 名詞（～（名詞）に決める）の使い分けがポイントです。`I decided to study abroad.`（留学することを決めた）。`We need to decide on a date for the party.`（私たちはパーティーの日程を決めなければならない）。

7.

解答 ④

【解説】

正解は④「歴史の、歴史に関する」です。`historical`は形容詞で、過去の出来事に関連していることを示します。`This movie is not a historical drama; it's a fantasy.`（この映画は歴史劇ではなく、ファンタジーだ）。①「歴史的に重要な」は`historic`、②「歴史家」は`historian`、③「歴史」は`history`です。これらはすべて`history`から派生した言葉ですが、意味や品詞が異なるので注意が必要です。

◆補足：`historical`と`historic`の使い分けが重要です。`historical`は単に「歴史上の」事実（`historical evidence` 歴史的証拠）を指すのに対し、`historic`はその中でも特に「歴史的に重要で画期的な」出来事や場所（`a historic speech` 歴史的な演説）を指します。

8.

解答 ④

【解説】

正解は④の`depend`で、「～に頼る、～をあてにする」または「～次第である」という意味の動詞です。`depend on (upon) ～`の形で使われるのが基本です。`You can always depend on him in an emergency.`（緊急時には、いつでも彼を頼ることができる）。`The cost depends on the size and quality.`（費用はサイズと品質次第だ）。他の選択肢は、①`defend`が「～を守る」、②`demand`が「～を要求する」、③`descend`が「下りる」という意味です。

◆補足：形容詞形は`dependent`（依存した）、名詞形は`dependence`（依存）です。`It depends.`は「それは状況次第だね」という、会話で非常に便利な返答です。

9.

解答 ②

【解説】

正解は②の`attack`で、名詞として「攻撃」、動詞として「～を攻撃する」という二つの意味があります。敵や相手に対して、武力や言葉で害を与えようとすることを指します。名詞の例：`The village was under attack.`（その村は攻撃を受けていた）。動詞の例：`The lion attacked the zebra.`（ライオンはシマウマを攻撃した）。他の選択肢は、①`attach`が「～を添付する」、③`attain`が「～を達成する」、④`attract`が「～を引きつける」という意味です。

◆補足：`attack`は他動詞なので、`attack against ～`のように前置詞は不要です。`a heart attack`（心臓発作）や`a panic attack`（パニック発作）のように、病気の発作を表すのにも使われます。

10.

解答 ②

【解説】

正解は②の`crowd`で、「群衆、人ごみ」を意味します。多くの人々が特定の場所に集まっている状態を指します。`A large crowd gathered to watch the street performance.`（大道芸を見るために大勢の群衆が集まった）。他の選択肢は、①`cloud`が「雲」、③`clown`が「ピエロ」、④`crown`が「王冠」という意味で、発音が似ていますが意味は異なります。

◆補足：動詞の`crowd`は「群がる」、形容詞の`crowded`は「混雑した」という意味です。`The train was so crowded that I couldn't move.`（その電車はとても混んでいて、私は身動きが取れなかった）。

11.

解答 ①

【解説】

正解は①「～を扱う、～を治療する、～におごる」です。`treat`は複数の重要な意味を持つ動詞です。①「～を（ある態度で）扱う、待遇する」、②「～を治療する」、③「～におごる、ごちそうする」の三つが中心です。`You should treat animals with kindness.`（動物には優しさをもって接するべきだ）。`This is a new way to treat the disease.`（これはその病気を治療する新しい方法だ）。`I'll treat you to ice cream.`（アイスクリームをおごるよ）。②～④はそれぞれ`threaten`、`trust`、`track`です。

◆補足：名詞形は`treatment`（扱い、治療）です。`a medical treatment`（治療）。名詞の`treat`は「特別な楽しみ、ごちそう」を意味します。`Going to the concert was a real treat.`（コンサートに行ったのは本当に特別な楽しみだった）。

12.

解答 ④

【解説】

正解は④「著者、作家」です。`author`は、本、記事、劇などを書いた人、つまり「著者、作家」を意味する名詞です。`She is the author of several best-selling novels.`（彼女はいくつかのベストセラー小説の著者だ）。①「俳優」は`actor`、②「権威」は`authority`、③「聴衆」は`audience`がそれぞれ適切な単語です。

◆補足：`author`は`writer`とほぼ同じ意味ですが、`author`は特に出版された作品の書き手を指す、よりフォーマルな響きを持つことがあります。

13.

解答 ②

【解説】

正解は②の`bury`で、「～を埋める、埋葬する」という意味の動詞です。何かを土の中に隠したり、亡くなった人を埋葬したりすることを表します。`The pirates buried the treasure on a deserted island.`（海賊たちは無人島に宝物を埋めた）。他の選択肢は、①`burn`が「～を燃やす」、③`berry`が「ベリー類（の果物）」、④`busy`が形容詞で「忙しい」という意味です。

◆補足：`bury`の発音は「ベリー」に近く、③の`berry`と全く同じです。スペルに惑わされず、正しい発音を覚えましょう。受け身の`be buried`（埋葬されている）の形で使われることも多いです。

14.

解答 ④

【解説】

正解は④の`original`で、主に二つの意味を持つ形容詞です。一つは「元の、最初の」で、変更や複製がされる前の状態を指します。もう一つは「独創的な、独創性のある」で、他人の真似ではない、新しい発想に基づいていることを示します。`The original plan was to go by train.`（元の計画は電車で行くことだった）。`He has a highly original style of painting.`（彼は非常に独創的な画風を持っている）。他の選択肢は、①`ordinary`が「普通の」、②`official`が「公式の」、③`organic`が「有機の」という意味です。

◆補足：名詞の`original`は「原作、原型」を意味します。副詞形は`originally`（元々は）です。`This building was originally a school.`（この建物は元々は学校だった）。

15.

解答 ①

【解説】

正解は①の`allow`で、「～を許す、～に…させておく」という意味の動詞です。誰かが何かをすることを許可したり、可能にしたりすることを表します。`Students are not allowed to use their phones during class.`（生徒は授業中に携帯電話を使用することを許可されていない）。他の選択肢は、

②`follow`が「～に従う」、③`swallow`が「～を飲み込む」、④`shallow`が形容詞で「浅い」という意味です。

◆補足：`allow` 人 to do`の形で「人が～することを許す」という構文が非常によく使われます。`My parents allowed me to go to the concert.`（両親は私がコンサートに行くのを許してくれた）。名詞形は`allowance`（手当、お小遣い）です。`let`も「許す」ですが、`allow`の方がよりフォーマルな響きがあります。

16.

解答 ①

【解説】

正解は①「空間、宇宙」です。名詞の`space`は、何もない空いた場所としての「空間、余地、スペース」や、地球の外に広がる広大な「宇宙」を意味します。`Is there enough space for my luggage?`（私の荷物を置くのに十分なスペースはありますか?）。`He dreamed of becoming an astronaut and traveling through space.`（彼は宇宙飛行士になって宇宙を旅することを夢見ていた）。②「速度」は`speed`、③「特別な」は形容詞の`special`、④「場所」は`place`です。`place`が特定の地点を指すのに対し、`space`はより広がりや空いている場所というニュアンスが強いです。

◆補足：形容詞形は`spacious`（広々とした）です。`a parking space`（駐車スペース）、`personal space`（パーソナルスペース）、`outer space`（宇宙空間）など、多くの複合語で使われます。

17.

解答 ②

【解説】

正解は②の`locate`で、主に二つの意味で使われます。一つは、他動詞として「(物や人の) 場所を突き止める、見つけ出す」という意味です。もう一つは、`be located in/at/on ~`の形で「～に位置する、ある」という意味です。`The rescue team was unable to locate the missing climbers.`（救助隊は行方不明の登山者の位置を突き止めることができなかった）。`The hotel is conveniently located near the station.`（そのホテルは駅の近くの便利な場所にある）。他の選択肢は、①`lock`が「～に鍵をかける」、③`rotate`が「回転する」、④`allocate`が「～を割り当てる」という意味です。

◆補足：名詞形は`location`（場所、位置）です。`be located in`は`be situated in`とほぼ同じ意味で使うことができます。

18.

解答 ②

【解説】

正解は②「歴史家」です。`historian`は、歴史を専門に研究する「歴史学者」を意味する名詞です。`She is a respected historian specializing in medieval Europe.`（彼女は中世ヨーロッパを専門とする、尊敬される歴史家だ）。①「歴史の」は`historical`、③「歴史的に重要な」は`historic`、④「歴史」は`history`です。

◆補足：`-ian`は「～を専門にする人」を表す接尾辞で、`musician`（音楽家）や`comedian`（コメディアン）、`librarian`（司書）などにも見られます。

19.

解答 ②

【解説】

正解は②「お互い（に、を）」です。`each other`は代名詞で、二者（またはそれ以上）が、互いに同じ行為を及ぼし合うことを示します。`My brother and I often help each other with homework.`（兄と私は、よくお互いに宿題を手伝い合う）。①「（二者のうちの）もう一方」は`the other`、③「（不特定の）他の人々」は`others`、④「それぞれ」は`each`がそれぞれ適切な単語です。

◆補足：`one another`も`each other`とほぼ同じ意味で使われます。一般的に、`each other`は二者の間で、`one another`は三者以上の間で使われるとされますが、現代英語ではこの区別はあまり厳密ではありません。

20.

解答 ③

【解説】

正解は③「～を実行する」です。`carry out`は、「（計画、任務、調査、実験など）を実行する、遂行する」という意味の句動詞です。`The team carried out the plan successfully.`（そのチームは計画を成功裏に実行した）。①「～を運ぶ」は`carry`、②「～を続ける」は`carry on`、④「～を持ち去る」は`carry away`がそれぞれ適切な表現です。

◆補足：`carry out`は`perform`や`conduct`といった、よりフォーマルな動詞とほぼ同じ意味で使えます。`carry out a promise`（約束を果たす）、`carry out research`（研究を行う）といったコロケーションも重要です。

21.

解答 ④

【解説】

正解は④「巨大な」です。形容詞の`giant`は、「巨人のような、巨大な」という意味で、`huge`や`enormous`と似ており、並外れて大きいことを表します。`The company has become a giant in the IT`

industry.`（その会社はIT業界の巨人になった）のように名詞としても使われます。①「穏やかな」は`gentle`、②「古代の」は`ancient`、③「本物の」は`genuine`がそれぞれ適切な単語です。

◆補足：`giant`は名詞として「巨人」という意味もあります。物語などでよく使われますね。`a giant squid`（ダイオウイカ）のように、生物の名前にも使われます。

22.

解答 ②

【解説】

正解は②の`privacy`で、「プライバシー、私生活、個人的な自由」を意味します。他人に干渉されずに一人でいられる状態や、個人的な事柄を公にされない権利を指します。`The new law is designed to protect people's privacy.`（新しい法律は人々のプライバシーを保護するために作られた）。他の選択肢は、①`private`が形容詞で「私的な」、③`primacy`が「第一位、優位」、④`priority`が「優先事項」という意味です。

◆補足：`privacy`は形容詞`private`（私的な）の名詞形です。コロケーションとしては、`protect one's privacy`（プライバシーを守る）や`respect one's privacy`（プライバシーを尊重する）があります。`invasion of privacy`で「プライバシーの侵害」を意味する法律用語にもなります。

23.

解答 ③

【解説】

正解は③の`substance`で、「物質、物」を意味します。特定の物理的性質を持つ、形のあるものを指す一般的な言葉です。`Water is a clear, odorless substance.`（水は無色無臭の物質だ）。他の選択肢は、①`subject`が「主題、科目」、②`subtitle`が「字幕」、④`substitute`が「代用品、補欠選手」という意味です。

◆補足：`substance`には「中身、実質、内容」という比喩的な意味もあります。`His report lacks substance.`（彼の報告書は中身に乏しい）。形容詞形は`substantial`（かなりの、実質的な）で、「かなりの量の」という意味でよく使われます。

24.

解答 ④

【解説】

正解は④の`wealth`で、「富、財産」を意味する名詞です。多くのお金や高価な資産を持っていることを指します。`He used his wealth to help people in need.`（彼は困っている人々を助けるために自らの富を使った）。他の選択肢は、①`health`が「健康」、②`worth`が「価値」、③`weather`が「天気」という意味です。

◆補足：形容詞形は`wealthy`（裕福な）です。`rich`も「お金持ちの」ですが、`wealthy`は土地や株などの資産も含めた、より安定的で大規模な富を持っているニュアンスが強いです。

25.

解答 ④

【解説】

正解は④の`vote`で、名詞として「投票、票」、動詞として「投票する」という二つの意味を持ちます。選挙や会議などで、自分の意思を示すために票を入れる行為を指します。`The bill was passed by a vote of 200 to 150.`（その法案は200対150の投票で可決された）。`I voted for the current mayor.`（私は現職の市長に投票した）。他の選択肢は、①`note`が「メモ」、②`quote`が「～を引用する」、③`devote`が「～を捧げる」という意味です。

◆補足：`vote for`～で「～に賛成の票を入れる」、`vote against`～で「～に反対の票を入れる」となります。`cast a vote`で「一票を投じる」という言い方もあります。

26.

解答 ①

【解説】

正解は①「～を集める、集まる」です。`gather`は、他動詞として「～を集める」、自動詞として「（人々などが）集まる」という二つの意味を持つ動詞です。`I gathered some information about the topic on the Internet.`（私はインターネットでその話題に関する情報をいくつか集めた）。`A large number of people gathered for the concert.`（多くの人々がコンサートのために集まった）。②「～を推測する」は`guess`、③「～を案内する」は`guide`、④「～を卒業する」は`graduate`です。

◆補足：類義語の`collect`も「集める」ですが、`collect`が切手やコインなどを趣味として体系的に収集するニュアンスが強いのにに対し、`gather`はより一時的に、あるいは様々な場所から集めるニュアンスです。名詞形は`gathering`（集まり、集会）です。

27.

解答 ②

【解説】

正解は②「過程、工程」です。名詞の`process`は、特定の結果に至るまでの一連の行動や変化を指します。`Learning a new skill is a gradual process.`（新しい技術を学ぶことは、段階的な過程だ）。①「利益」は`profit`、③「進歩」は`progress`、④「約束」は`promise`がそれぞれ適切な単語です。

◆補足：`process`は動詞として「～を加工する、処理する」という意味でも使われます。`This factory processes raw materials into finished goods.`（この工場は原材料を完成品に加工している）。

名詞のアクセントは前に（プロセス）、動詞のアクセントは後ろに（プロセース）置かれるのが一般的です。

28.

解答 ③

【解説】

正解は③の`detail`で、「詳細、細部、細目」を意味する名詞です。物事の全体ではなく、細かい個々の部分を指します。`The police officer asked for more details about the incident.`（その警察官は事件についてのさらなる詳細を求めた）。他の選択肢は、①`tail`が「しっぽ」、②`deal`が「取引」、④`tale`が「物語」という意味です。これらは発音が似ているので、混同しないようにしましょう。

◆補足：`in detail`で「詳細に」という副詞句になります。`She explained the plan in detail.`（彼女は計画を詳細に説明した）。形容詞形は`detailed`（詳細な）です。`a detailed report`（詳細な報告書）。

29.

解答 ③

【解説】

正解は③「災害、大惨事」です。`disaster`は、地震、洪水、台風などの「(自然) 災害」や、大きな損害や苦しみを引き起こす「大惨事、大失敗」を意味する名詞です。`The town has never experienced such a disaster.`（その町はそのような災害を経験したことがなかった）。①「発見」は`discovery`、②「不快」は`discomfort`、④「不一致」は`disagreement`です。

◆補足：形容詞形は`disastrous`（悲惨な、災害を引き起こす）です。`a natural disaster`（自然災害）。`disaster prevention`（防災）。

30.

解答 ④

【解説】

正解は④の`be crowded with`～`で、「～で混雑している、～でいっぱいだ」という意味です。場所が、多くの人々で混み合っている状態を表します。`The streets were crowded with tourists.`（通りは観光客で混雑していた）。他の選択肢は、①`be covered with`～`が「～で覆われている」、②`be filled with`～`が「～で満たされている」、③`be pleased with`～`が「～に喜んでいる、満足している」という、それぞれ`be ... with`～`の形の重要な熟語です。

◆補足：`crowd`は名詞で「群衆」、動詞で「群がる」という意味です。形容詞`crowded`（混雑した）を使った表現です。`an overcrowded train`（超満員の電車）。

31.

解答 ③

【解説】

正解は③の`evidence`で、何かが真実であることを示す「証拠、証言、形跡」を意味する名詞です。裁判や科学的な議論などで使われることが多い、やや硬い言葉です。`The police found no evidence to link him to the crime.`（警察は彼をその犯罪と結びつける証拠を何も見つけられなかった）。他の選択肢は、①`event`が「出来事」、②`existence`が「存在」、④`experience`が「経験」という意味です。

◆補足：`evidence`は数えられない名詞（不可算名詞）として扱われるのが基本です。「一つの証拠」は`a piece of evidence`のように数えます。形容詞形は`evident`（明白な）で、`It is evident that ...`（…ということは明白だ）の形で使われます。

32.

解答 ④

【解説】

正解は④の classical で、特定の歴史的時代や様式、特に「古代ギリシャ・ローマの」や「(18 世紀ヨーロッパなどの) 古典派の」芸術・音楽・文学などを指す形容詞です。「クラシック音楽」は英語で classical music と言います。他の選択肢は、①classic が時代を問わず「(その分野で) 最高水準の、典型的な、不朽の名作の」といった意味合いで使われます（例: a classic car）。②clerical は「事務員の、聖職者の」、③critical は「批判的な、重大な」という意味です。

◆補足：classical が特定の歴史的様式（古代ギリシャ・ローマ、古典派音楽など）を指すのに対し、classic はより広く「時代を超えた傑作」や「典型的な例」を指します。例えば、classical literature（古典文学）は特定の時代の文学を指しますが、a classic novel（不朽の名作小説）はどの時代の作品でもありえます。このニュアンスの違いを理解することが重要です。

33.

解答 ④

【解説】

正解は④の`sometime`で、「(未来または過去の) いつか、ある時」という意味の副詞です。はっきりしない、漠然とした時を指します。`Let's have dinner together sometime.`（いつか一緒に夕食を食べましょう）。他の選択肢は、①`sometimes`が「時々」、②`some time`が「しばらくの間、少しの間」（2 語に分かれる）、③`some days`が「何日か」という意味です。

◆補足：`sometime`（いつか）、`sometimes`（時々）、`some time`（しばらく）の 3 つの使い分けは、非常に紛らわしく、テストでもよく狙われます。スペースの有無と`s`の有無で意味が全く変わるので、例文ごとしっかり覚えましょう。

34.

解答 ③

【解説】

正解は③の`take A for B`で、「A を B だと（誤って）思う、A を B と間違える」という意味です。

`I'm sorry, I took your bag for mine.`（すみません、あなたのバッグを私のものと間違えました）。他の選択肢は、①`think of A as B`や④`see A as B`が「A を B とみなす」という意味で、必ずしも間違いを含みません。②`ask A for B`は「A に B を頼む」という意味です。

◆補足：`take A for B`は`mistake A for B`とほぼ同じ意味で使うことができます。`He is so mature that people often take him for a college student.`（彼はとても成熟しているので、人々はよく彼を大学生と間違える）。

35.

解答 ②

【解説】

正解は②「～を驚かせる」です。動詞の`surprise`は、「びっくりさせる」という意味で、予期しない出来事で、相手に驚きの感情を抱かせることを表します。`The news of his resignation surprised everyone.`（彼の辞任の知らせは皆を驚かせた）。①「～を供給する」は`supply`、③「～を仮定する」は`suppose`、④「～から生き残る」は`survive`がそれぞれ適切な単語です。

◆補足：人が「驚く」という感情を表すときは、受け身の`be surprised`の形を使います。`I was surprised at his sudden appearance.`（私は彼の突然の出現に驚いた）。`surprising`（驚くべき）と`surprised`（驚いた）の使い分けが重要です。名詞としても「驚き、驚くべきこと」を意味します。

36.

解答 ②

【解説】

正解は②「衣服」です。`clothes`は、シャツ、ズボン、ドレス、コートなど、人が身につける「服」を意味する名詞です。常に複数形で使われ、単数形はありません。`You should wear warm clothes in winter.`（冬には暖かい服を着るべきだ）。①「閉じる」は動詞の`close`、③「布」は`cloth`、④「雲」は`clouds`です。`close`と`cloth`はスペルや意味が近いので注意が必要です。

◆補足：`clothing`も「衣類」ですが、こちらは集合的で数えられない名詞です。`clothes`がより日常的な「服」を指すのに対し、`clothing`はよりフォーマルな響きを持ち、衣料品業界（`the clothing industry`）などで使われます。

37.

解答 ①

【解説】

正解は①「親戚」です。名詞の`relative`は、「身内、親戚」を意味します。血縁や結婚によってつながりのある人のことです。`Many of my relatives gathered for my grandfather's birthday.`（多くの親戚が祖父の誕生日のために集まった）。②「関係」は`relation`や`relationship`、③「理由」は`reason`、④「宗教」は`religion`がそれぞれ適切な単語です。

◆補足：`relative`は形容詞として「相対的な、比較上の」という意味もあります。`the relative importance of cost and quality`（コストと品質の相対的な重要性）。動詞形は`relate`（～を関連付ける）です。

38.

解答 ②

【解説】

正解は②の`make fun of`～で、「～をからかう、ばかにする」という意味です。冗談めかして、あるいは悪意を持って、人やその言動を笑いの対象にすることを表します。`You shouldn't make fun of others.`（他人をからかうべきではない）。他の選択肢は、①`make up for`～が「～の埋め合わせをする」、③`make use of`～が「～を利用する」、④`make a fool of`～が「～を笑いものにする、大恥をかかせる」という意味です。`make a fool of`は`make fun of`よりもさらに意地悪なニュアンスを持ちます。

◆補足：`make fun of`は`tease`や`laugh at`と意味が似ていますが、`make fun of`の方が、より子供じみたからかいのニュアンスを持つことがあります。

39.

解答 ③

【解説】

正解は③の`quit`で、「（仕事、学校、習慣など）をやめる、断念する」という意味の動詞です。`He decided to quit smoking.`（彼は禁煙することに決めた）。他の選択肢は、①`quiet`が形容詞で「静かな」、②`quite`が副詞で「かなり」、④`quote`が動詞で「～を引用する」という意味です。これらは非常によく似ていて間違いやすいので、スペルと発音をセットで正確に覚えましょう。

◆補足：`quit`の活用は`quit - quit - quit`と変化しません。`give up`も「やめる」ですが、`give up`が習慣（喫煙など）をやめるのによく使われるのに対し、`quit`は仕事や学校をやめる場合によく使われます。

40.

解答 ①

【解説】

正解は①「～を分ける、分割する」です。動詞の`divide`は、一つのものを複数の部分に分けたり、グループに分けたりすることを表します。`The cake was divided into six equal pieces.`（そのケーキは6等分された）。②「～を提供する」は`provide`、③「～を運転する」は`drive`、④「～に飛び込む」は`dive`がそれぞれ適切な単語です。

◆補足：`divide A into B`で「AをBに分ける」という形がよく使われます。名詞形は`division`（分割、部門）です。算数の「割り算」も`division`と言います。

41.

解答 ②

【解説】

正解は②「規則的な、ふつうの」です。`regular`は形容詞で、決まったパターンや間隔で繰り返されることや、特別ではなく標準的であることを表します。`Regular dental checkups are important.`（定期的な歯科検診は重要だ）。①「不規則な」は`irregular`で、否定を表す`ir-`が付いた対義語です。③「地域的な」は`regional`、④「宗教的な」は`religious`です。

◆補足：副詞形は`regularly`（規則的に、定期的に）です。`a regular customer`（常連客）。`regular size`（レギュラーサイズ）。

42.

解答 ③

【解説】

正解は③の`be made from`～で、製品が元の形をとどめない「原料」から作られていることを示します。材料が化学的な変化を経て製品になる場合に使われます。`Plastic is made from oil.`（プラスチックは石油から作られる）。他の選択肢は、①`be made of`～が机が木でできているように、見た目「材料」が分かる場合に使います。②`be made in`～は「～製である」と作られた場所を示し、④`be made into`～は「～に加工される」と製品を主語にした表現です。

◆補足：`be made from`～（原料）と`be made of`～（材料）の使い分けは重要です。「from はフロム変化」のように、元の形から変化してしまったら`from`、と覚えるのも一つの方法です。`Glass is made from sand.`（ガラスは砂から作られる）。

43.

解答 ①

【解説】

正解は①「優れた、素晴らしい」です。`excellent`は、品質や能力などが「非常に優れた、素晴らしい、優秀な」ことを表す形容詞です。`very good`よりもさらに質の高さを強調する言葉で、強い賛辞

を表します。`The hotel provided excellent service.`（そのホテルは素晴らしいサービスを提供した）。②「過剰な」は`excessive`、③「正確な」は`exact`、④「外的な」は`external`がそれぞれ適切な単語です。

◆補足：名詞形は`excellence`（優秀さ、卓越性）です。相手をほめる言葉として、`Excellent!`（素晴らしい！）と単独で使うこともできます。

44.

解答 ③

【解説】

正解は③「(地面など)を掘る」です。動詞の`dig`は、シャベルなどの道具や手を使って、地面などを「掘る、掘り返す」ことを意味します。`Archaeologists are digging for ancient artifacts.`（考古学者たちが古代の遺物を求めて発掘している）。①「大きい」は`big`、②「犬」は`dog`、④「～を（液体に）浸す」は`dip`がそれぞれ適切な単語です。

◆補足：`dig`の活用は`dig - dug - dug`と不規則に変化します。`dig up`で「～を掘り出す」となります。比喩的に、情報を「探り出す」という意味で使われることもあります。

45.

解答 ①

【解説】

正解は①「ますます、だんだん」です。`increasingly`は副詞で、物事の程度や数量が、時間とともに増していく様子を表します。形容詞や副詞を修飾して、その変化が継続していることを示します。`It is becoming increasingly important to protect the environment.`（環境を保護することがますます重要になってきている）。②「信じられないほど」は`incredibly`、③「必然的に」は`inevitably`、④「徐々に」は`gradually`がそれぞれ適切な単語です。`gradually`は単に段階的な変化を表しますが、`increasingly`は増加の方向性を持つ変化を強調します。

◆補足：`increasingly`は、動詞`increase`（増加する）の現在分詞`increasing`に`-ly`を付けて作られた副詞です。`more and more`という表現と意味が似ていますが、`increasingly`の方がよりフォーマルな響きがあります。

46.

解答 ①

【解説】

正解は①「～という結果になる」です。`result in ~`は、「～に終わる、～という結果をもたらす」という意味の句動詞です。ある行為や出来事が、特定の結果を引き起こすことを示します。`The careless mistake resulted in a serious accident.`（その不注意なミスが、深刻な事故という結果につながっ

た)。②「～から生じる」は`result from ～`で、原因と結果の関係が逆になります。`The accident resulted from a careless mistake.`（その事故は不注意なミスから生じた）。③「～に頼る」は`rely on ～`、④「～に到着する」は`arrive at ～`です。

◆補足：`result in`の後ろには「結果」が、`result from`の後ろには「原因」が来ます。この因果関係の方向性をしっかり理解しておくことが、長文読解などで非常に重要になります。

47.

解答 ③

【解説】

正解は③「状況、事態、立場」です。`situation`は、ある特定の時と場所における、物事の「状況、事態、情勢」や、人の「立場、境遇」を意味する名詞です。`We need to assess the current situation accurately.`（私たちは現状を正確に評価する必要があります）。①「解決策」は`solution`、②「満足」は`satisfaction`、④「提案」は`suggestion`がそれぞれ適切な単語です。

◆補足：`the economic situation`（経済状況）、`a difficult situation`（困難な状況）。類義語の`circumstance`は、より周囲の事情や環境というニュアンスが強いですが、複数形の`circumstances`で`situation`と似た意味で使われます。

48.

解答 ③

【解説】

正解は③「自然に、生まれつき、当然」です。`naturally`は副詞で、人の手を加えずに物事がそのようになる様子や、当然の帰結としてそうなることを表します。`She is naturally talented at music.`（彼女は生まれつき音楽の才能がある）。`He worked hard, so naturally, he passed the exam.`（彼は一生懸命勉強した。だから当然、試験に合格した）。①「全国的に」は`nationally`、②「中立的に」は`neutrally`、④「神経質に」は`nervously`です。

◆補足：`naturally`は、形容詞`natural`（自然の）に`-ly`を付けて作られた副詞です。`nature`（自然）→`natural`（自然な）→`naturally`（自然に）という単語のファミリーを意識すると良いでしょう。

49.

解答 ③

【解説】

正解は③「AだけでなくBも」です。`not only A but also B`は、AとBの両方が当てはまることを示し、特にBの方を強調する表現です。`He is famous not only in Japan but also in other countries.`

(彼は日本だけでなく、他の国々でも有名だ)。①「A か B のどちらか」は`either A or B`、②「A でも B でもない」は`neither A nor B`、④「A と B の両方」は`both A and B`です。

◆補足：`also`は省略されることがあります。`not only A but B as well`という形も可能です。`not only A but also B`が主語になる場合、動詞はより近い方の B の形に一致させます。`Not only you but also he is responsible.`(君だけでなく彼にも責任がある)。

50.

解答 ②

【解説】

正解は②の`mention`で、「～について（簡潔に）言及する、～に触れる」という意味の動詞です。詳しく説明するのではなく、話のついでに軽く触れたり、名前を挙げたりするニュアンスがあります。`He mentioned that he was going to a concert.`(彼はコンサートに行くと言っていた)。他の選択肢は、①`mean`が「～を意味する」、③`question`が「～に質問する」、④`tension`が名詞で「緊張」という意味です。

◆補足：`Don't mention it.`は`You're welcome.`(どういたしまして)と同じ意味で使われる丁寧な返答です。「お礼を言われるほどのことではありません」というニュアンスです。名詞としても`mention`は「言及」を意味し、`make a mention of`で「～に言及する」となります。
